

文部科学省研究拠点形成費等補助金（先進的イノベーション人材養成事業）（「未来医療研究人材養成拠点形成事業」（リサーチマインドを持った総合診療医の養成）に採択されました。

筑波大学附属病院

当院は、研究拠点形成費等補助金（先進的イノベーション人材養成事業）（「未来医療研究人材養成拠点形成事業」（リサーチマインドを持った総合診療医の養成）（当院事業名称：次世代の地域医療を担うリーダーの養成）に採択されました。

本補助事業は、平成 25 年から 5 年間の事業となっており、文部科学省において、今後の急速な高齢化社会の進展が見込まれる中、将来を見据えた地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することを目的とした事業です。

当院ではこの主旨を受けて、次世代の地域医療を担うリーダーを体系的に養成する教育プログラムを導入し、医学群・人間総合科学研究科等学内諸機関や、茨城県、医師会等地域関係各機関とも連携して、大学—地域循環型の人材養成システムによりすぐれた総合診療医を養成してまいります。

#### （プログラムの概要）

本事業では、次世代の地域医療を担うリーダーを養成することを目標としています。教育プログラムは、学生・研修医、後期研修医、総合診療専門医の 3 つの段階を通して、総合診療医としての高い専門能力・研究能力を修得するとともに、地域医療のリーダーに求められるノンテクニカルスキルも、明確な人材養成目標に向けバランスよく体系的に修得できるのが大きな特長です。実際の教育は、地域医療の第一線を担う病院・診療所に大学教員を派遣する本学独自のシステム：地域医療教育センター・ステーションをフィールドに、大学と地域が一体となって展開します。運営は、附属病院総合診療グループと総合臨床教育センターを中心に、茨城県や医師会、地域医療機関との緊密な連携の下で行います。本事業の導入により、大学—地域循環型のキャリアパスを確立して、将来の超高齢社会における地域包括ケアをリードできる、優れた総合診療医を数多く養成することを目指しています。

（参考）研究拠点形成費等補助金（先進的イノベーション人材養成事業）（「未来医療研究人材養成拠点形成事業」（リサーチマインドを持った総合診療医の養成）の目的：文部科学省

- 今後、急速な高齢化の進展（2025 年には 65 歳以上人口が 3 割を超える）が見込まれるなか、「医療」「介護」「予防」「生活支援」「住まい」の 5 つの要素を柱とした「地域包括ケアシステム」が各市町村で実現できるかどうかが新たな課題となっております。
- 特に、医療面では、複数の疾患や問題を抱えている高齢者に対して、効率的に多様な医療（総

合診療、在宅医療、認知症対応、緩和ケア、在宅看取り等)を包括的かつ柔軟に提供するためには、臓器別・領域別ではなく、患者を幅広い視点で診ることができる総合的な診療能力を有するとともに、地域包括ケアシステムのなかで、多職種と連携してリーダーシップを発揮することのできる医師が求められています。

- さらに、高齢社会に伴う医療ニーズの変化に対応し得るリサーチマインドを持ち、医療の進歩と改善に資する臨床研究を遂行できる医師が求められています。
- そのため、本事業では、国民が将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、各大学が理念や強み、特色、地域性等を活かして、地域の医療機関や市町村等と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することを目的とします。

文部科学省発表 平成25年度研究拠点形成費等補助金（先進的イノベーション人材養成事業）」の選定結果について

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kaikaku/1338494.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/1338494.htm)